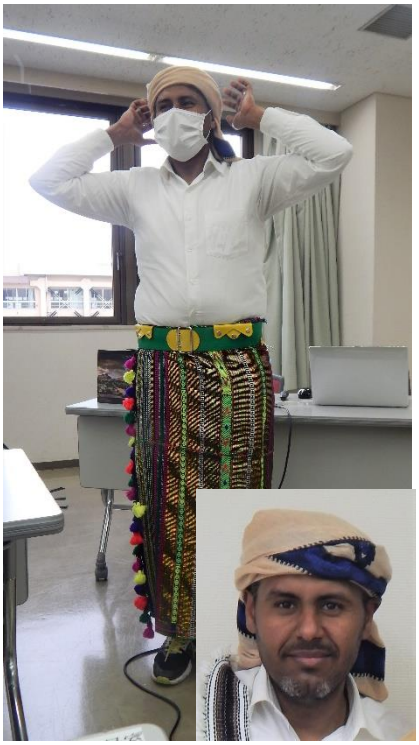
3 月度通常例会（2023 年 3 月 18 日）　於：福祉文化会館

Uncovering the Enchanting History and Culture of Yemen : Journey to the Birthplace of Mocha Coffee

魅惑の歴史と文化の国：モカコーヒー誕生の地　イエメン

Hani M. BU-OMER さん(イエメン)



今回のゲストスピーカーはアラビア半島南端の国、イエメンからの Hani M. BU-OMER さん＝写真右＝です。大阪大学で医用再生工学などの研究をしています。紀元前 10 世紀ごろとされるソロモン王とシバの女王の恋物語でも知られるこの地は、乳香の交易ルートにあって繁栄し、建築、芸術、文学などにエキゾチックで多様な文化を育みました。モカコーヒーの名はかつてこの国の港町、モカからコーヒー豆が積み出されたことに由来するということです。スピーチの要約は以下の通りです。

ハニさんの自己紹介

1986 年生まれ。イエメンの高校を卒業後、エジプトのカイロ大学で学び修士号を得た後 2018 年来日。岡山大学で博士号を取得し現在、大阪大学で特別研究員として医用再生工学、バイオサイエンスなどの研究を続けています。夫人と 2 歳の娘の父。

イエメン

北はサウジアラビア、東はオマーン。西は紅海、南はアデン湾、アラビア海に面している。首都はサナア（Sanaa’a)、人口は約 2800 万人。

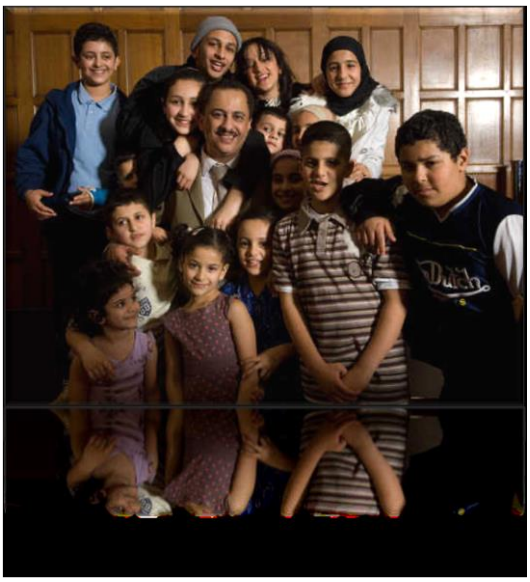
アラビアコーヒーが紅海に面したモカの港から積み出され、欧州などに広がっ

たことからこの名がコーヒーの代名詞のようになった。
　地中海、アフリカ、インドとの物資の中継地として繁栄し、古代ギリシャやローマから「アラビア・フェリックス」（幸福のアラビア）と呼ばれていた。

歴史

　イエメンには石器時代から人が住んでいたとされる。紀元前 2 世紀ごろ、ヒムヤル王国が建国された。7 世紀ごろにムスリムに征服され、16 世紀にはオスマン帝国の支配を受けた。その後、南北イエメンに分かれ、南イエメンは 1900 年に再統合されるまで英国に支配された。2014 年から南北イエメンの内戦が勃発、大きな被害と人道上の危機に陥った。

イエメンの文化



　サウジアラビア、アフリカ、インドに近いことから、これら地域の影響を受けた多文化社会である。料理は香料と香辛料を多く使う。
　男性はジャンビーア（携帯用の湾曲した短刀）を腰のベルトに差している。女性は顔を覆うニカーブというベールをかぶる。
　大家族主義＝**写真左**＝で食事は通常、全員でとる。挨拶は握手か手にキスをする。子供はハグ。昔から慎み深い国柄で成人女性は髪を隠す。教育制度は初等・中等教育、高校、大学。
　もてなしの精神が強く、客が来ると最高の食事を提供する。近所づきあいでも食べ物やギフトが交換されることが多い。

シバの女王

　ここで、伝説のシバの女王を讃える歌とともに、日本語による以下の説明がありました。
　聖書とクルアーン（コーラン）にも記されている「ソロモンとシバの女王」についての説明で、紀元前 10 世紀ごろ、栄華を極めていたユダヤのソロモン王がシバの女王に訪ねてくるように誘った。現在のイエメンと見られるシバは大量の乳香で巨大な富を築いており、女王はラクダのキャラバンでこれをソロモン王に届けたという。乳香は当時、金と同じ価値を持っていたとされている。

（筆者注：乳香はカンラン科の樹木から分泌されるミルク色の樹脂で、さわやかな香りを出すうえ、当時は不安を和らげるとともに、鎮痛や止血剤などにも使われていた、ということです）。

知恵比べなどで、互いの聡明さを認め合った二人は恋に落ち、以後、平和な関係を築いた。後の世になって欧州などの画家たちが想像を膨らませてシバの女王の姿を絵画に残している。

しかし、シバの女王が実在の人物だったのか？シバは現在のイエメンか？についての確実な証拠はまだ、見つかっていない。ただ、最近の発掘調査で、シバ王国の神殿跡ではないかと見られる遺跡が見つかり、様々な顔、髪型、衣装などの人物の石像が発掘されており、周辺国から訪れた巡礼者や商人ではないかと推測されている。

後に登場し、イエメンを征服したイスラム教国では乳香をあまり使わなかったことから、王国は衰退していったようだが、アラビア、アフリカ、インドとの海洋貿易（香料、香辛料、コーヒーなど）では栄えた。

ランドマークスとアトラクション（世界遺産）

サナアの旧市街**＝写真上＝**には 2500 年以上も前から人々が住んでいた。11 世紀以前に建てられた 100 以上のモスク、6000 以上の家が残っており、世界文化遺産に登録されている。

また、**シバムハドラマウト**の街と砂漠の谷には 16 世紀ごろ、日干し煉瓦でつくられた 500 以上の高層建築群が現存している**=写真左。**11 階建てのものもあり、“世界最古の摩天楼都市”の異名を持つ。

イエメンの南、インド洋に浮かぶ**ソコトラ諸島（4 つの小さな島）**には独特の植生・生態系があり、絶景が広がっている。こちらは 2008 年に登録された世界自然遺産。島の植生は 300 種以上が固有種で、竜血樹という独特の木などが有名。鳥には珍しい種類が多く 6 種が固有種だ。

アデニウム・ソコトラナムの樹

竜血の樹

習慣と伝統

踊りや民族衣装

女性の衣装にはアラビアンナイトの世界を連想させるようなエキゾチックで美しいものがあり、男たちは腰にジャンビーヤという曲がった短刀を腰につけるのが特長。

ジャンビーヤ

文化の多様性からくるさまざまな伝統的なダンス＝写真下＝もある。

料理

各種の料理があるが、サルタと呼ばれる石鍋料理が祝い事などに出される。羊のスープをベースにトマト、ジャガイモ、米、卵などさまざまな具を煮こむことができる料理。海に面した国で焼き魚料理もある。

ラマダン

ラマダンはイエメンでも大変重要な月で、神への献身と精神の浄化のため、食事、飲料、肉体的欲求を夜明けから日没まで控える。夜明け前の軽い食事と日没後の簡単な食事とお祈りですませる。また、義務的な喜捨、貧しい人やホームレスの人たちに食事を提供したり、衣類などのプレゼントもする。

ラマダンの間、家族が集まることを大切にし、友人や親せきの人たちを招く。こうした集まりでは伝統的なイエメン料理をともに楽しむ。ラマダンの月はお祝いの雰囲気になり、街は色鮮やかな光やデコレーションで飾られ、地域を温か

い雰囲気にする。

Let`s Speak Arabic

最後に「こんにちは」を意味する「マレハバ」、「ありがとうございます」を意味する「シュクラン」など、いくつかのアラビア語を文字とともに教えてくれました。

以上